

経緯と趣旨

堺ラグビースクールは昭和62年（1987年）4月に開校しました。以来 生徒数、指導者数も開校時より増加して安定的に、生徒数約150名指導員数約70名と大阪府下でも指折りのスクールと言われるようになっております。

また、卒業生達も当初の生徒は30歳を超えて社会人の中軸として働き盛りでがんばっており、ラグビーの方面でも全日本級の選手やトップリーグで活躍するOB,OGが出てまいりました。

このような状況も卒業生の頑張りが一番ですが、歴代の指導者の方々のご尽力によるところ大であると感謝しております。

さて、再来年に30周年の節目を迎えるに際しまして、先般の運営委員会にていろんな周年記念行事を計画・実施するために準備委員会を立ち上げることを決定致しました。

準備委員会のリーダーに川瀬副校長兼事務局長になっていただき、これから活動を初めていきたいと考えております。

本日 指導者会議にて 皆様に準備委員会発足のご連絡を行い、指導員各位には何らかの準備活動のグループに入っていただきまして、これからは保護者も巻き込む予定ですので堺ラグビースクールの総力を挙げて準備活動に入っていきます。

何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

参考までに、過去は10周年と20周年には、お世話になっております関係各位のご来賓をいただき祝賀会を実施しており、また NZ 遠征や記念招待試合などの行事を行ってきました。

15周年時は、内輪のパーティーを実施しましたが、25周年時は何もやっておりません。

以上

※10周年記念誌に掲載されました「堺ラグビースクールの生い立ち」の記事も掲載しました。



《序にかえて》 堺ラグビースクールの生い立ち

創立十周年を迎え、関係各位をはじめとして指導の諸先生方、御父兄の一方ならぬ御苦労や御協力に対し、心から感謝の意を表し、厚く御礼申し上げます。

『耳つぶれてますけど、何かされてたんですか』

『ラグビーやってましてん』

『そうですか私もラグビーしてましてん』

『青少年の健全育成や非行防止に、ラグビィなんかを教えれば良いんですけどね』

『そら良い話ですな』

『ラグビィスクールを作りましょう』

『堺にラグビィスクールが無いのが不思議に思ってますん』

『うちの署長、府警のラグビィ部のOBです』

『うで話してみますわ』

川崎氏（堺東警察署少年係係長）

岡本氏（補導協員）と私（中西）の三人が昭和六十年十二月に交わした会話が堺ラグビィスクール誕生のきっかけでした。

六十一年五月に当時の堺警察署長の善積氏（堺ラグビィスクール名譽校長）とスクール設立について話したところ、ダイキン工業（株）堺製作所様にグラウンドの借用をお願いすることで話がまとまりました。

当時のダイキン工業（株）堺製作所の樋口所長様にラグビィスクール設立の趣旨を説明し上がったところ、快く引き受けて下さいました。

その上工場内グラウンドであるからと、総務課

長の大家氏（現堺ラグビィスクール副校長）戸松係長（現堺ラグビィスクール参与）をスクール運営に参加させようとの有難い申出をいただきました。

その後、堺での社会人ラグビィの中心である新日鐵ラグビィ部監督の杉江氏（現堺ラグビィスクール副校長）の呼びかけで、堺市役所、日立造船、泉州クラブ等、臨海リーグの主力の皆さんの参加を頂き、設立に向けて着々と準備が整って参りました。

万が一怪我などしたときのアフターケアが無ければ心配とのことで、再度善積署長にご相談したところ、清恵会病院の佐野理事長をご紹介頂き、二つ返事で『そういう事なら是非協力します』と言う有難いお言葉を頂戴致しました。

スクール名を「堺ラグビィスクール」とし、スローガンを

「健全な精神の育成」

「不屈の闘志と体力の育成」

「礼儀作法の修得」と定めて昭和六十二年四月八日を開校日と決定致しました。

月八日の生徒と五十五名の指導者で、大阪ラグビィ協会を初め多数の来賓のご参加を頂き、少年ラグビィ不毛の地泉州に、大阪府下二十五番目のラグビィスクールが産声を上げました。

精円のボールを初めて触った生徒達ばかりでしたが、練習ばかりでは楽しくないだろうと、拙速ではありましたが、九月からの公式戦にエントリーいたしました。

試合のできる体勢を整えるため、大急ぎで夏季合宿を決行致しました。

幸いダイキン工業様の研修施設をお借りして生徒、指導者、保護者約百二十名が二泊三日の日程をなんとか乗り切りました。

夜中に小児ぜん息の発作をみて右往左往したのが昨日のように思い出されます。

合宿後、ラグビィの指導以外の諸々は、保護者にお願ひすることにし、早急に保護者会が結成されました。

当時の保護者会の結成といい、十周年の後援会の結成と云い坂井氏には非常にご無理なお

願ひを引き受けていただき、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

『ありがとうございます』

『この年の試合の結果は、低学年を除いてはもの見事に惨敗でした。』

練習を始めて五か月余りでは当然の結果ですが、しかし生徒の中には悔し泣きをする子供が何人かいて、この調子なら何年後には必ず強くなるかと確信致しました。

六十三、四年頃から試合に勝つチームが少しずつ始め、他のスクールの仲間に入れるようになりまし。

その間、豊中ラグビィスクール、茨木ラグビィスクールを始め先輩スクールの皆さんには暖かいご指導を頂き有難く御礼申し上げます。

今後、ラグビィスクール発展のために、微力ではありますが、皆様方と一緒に力を合せて行きたいと思っておりますので、宜しくお願ひ申し上げます。

この三、四年の間に、色々な行事や、運営の改善等、先生方の建設的な提言や、ご意見を頂き、全員参加の皆のスクールとしての地歩を固める事が出来たと自負致しております。

その一つとして、生徒の作文を読み返して頂けますと、ほとんど全員が『合宿はしんどかったですけど友達が出来た楽しかった』と書いてくれています。

心身ともに成長するこの時期に、ラグビィを通して、多くの友達を得、色々なことを学んで欲しいと思います。

その手助けのために、私たち指導者は、今一度、本スクールの三つのスローガンを我々の使命として、二十年、三十年とラグビィが有る限り継続し、前進していきたいと思ひます。

最後になりましたが本記念行事開催にあたり深いご理解とご支援を頂いております、企業の皆様、保護者の皆様に心より御礼申し上げます。

堺ラグビィスクール 校長 中西 克治